

塚田環境フェア2010と15周年事業

取材日：平成22年（2010年）9月5日

【活動目的】

市民・行政・企業のパートナーシップにより、塚田地区において健全で恵豊かな環境の実現を目指すために、「塚田環境フェア」を開催する。

＜塚田環境フェアの実施＞

環境パネル展、フリーマーケット、リサイクルリユース地産地消の模擬店、塚田地区不用品無料回収、ごみクイズ、ものづくりコーナー、ペットボトルキャップ回収、塚田地区バザー

＜資源循環型まちづくりモデル事業の実施＞

ペットボトルステーション回収実験、ペットボトルキャップ回収実験、譲ります譲ってくださいボード、不用品無料回収実験

【支援金事業】（支援対象経費総額 351,570 円 支援金確定額 175,785 円 支援率 50%）

環境や自然に関する多くの団体が参加し、市民と一緒に環境に関する情報を発信、楽しく遊びながら環境についての知識を深めることを目的に、15回目となる「塚田環境フェア2010」を開催する。

また、「塚田環境フェア」の15周年事業として、可燃ごみ中の紙類のリサイクル率を上げ、ごみ減量化のための具体的な方法を住民に提示するため、雑紙の分別方法を印刷した雑紙分別紙袋を各戸配布する。



雑紙分別紙袋



ペットボトルキャップの回収

【活動の現場から】

平成22年9月5日（日）に塚田公民館で開催された「塚田環境フェア2010」を取材した。

町会・自治会、小・中学校、大学、NPO、行政等、様々な主体が参加し、環境パネル展、漁師めしの試食、フリーマーケットやバザー、模擬店、子ども達も参加できるものづくりコーナーや、段ボールの迷路あそび等のゲームやクイズラリーも行われ、大人も子どもも楽しみながら環境について学べる催しで構成されていた。



環境パネル展



コサージュづくりを体験

【雑紙分別の紙袋配布の効果】

雑紙分別紙袋は、「塚田環境フェア2010」の来場者に500枚、大規模マンションに1,000枚、5つの町会・自治会に約1,500枚、合計3,000枚を配付した。

大規模マンションで有価物回収日に雑紙回収量のデータを集計したところ、6ヶ月間の雑紙分別量は約2.5トンにもなった。また、今回配付した雑紙分別紙袋が無くなっても、家庭にある紙袋で継続して分別が続くなど、雑紙分別紙袋の配布は一定の成果が得られた。

【取材を終えて】

長年にわたり創意工夫を積み上げた「塚田環境フェア」の内容は見事で、幅広い年代の参加者の多さには驚いた。特に、地元町会・自治会、小・中学校、大学、NPO、地区社会福祉協議会、クリーン推進課・環境保全課などの市役所等、多様な主体を糾合する組織力は強力である。

今後も「塚田環境フェア」が継続され、また新しい試みが追加されることを大いに期待したい。

関わり先（連絡担当者）
塚田環境フェア2010実行委員会
事務局 江口 晴美
TEL：047-460-0736